

医学部の教員としての資質：高久史磨先生が教えてくださったこと

小林英司

私は、昭和 57 年に自治医大を卒業したが、恩師、高久史磨先生はその年に東京大学医学部に移られた。時が流れ、自分自身も自治医大教授から大塚製薬工場特別顧問を経て、ここ慶應義塾大学医学部に移り、自分が今後なすべきことを考えたとき、高久先生が随所で述べられたことが今になってわかってきたように感じた。2015 年「臓器再生医学の発展」と題し、今後やるべきことを述べさせていただいた ([ココ](#))。

いまでこそ医学部においてトランスレーショナル・リサーチとして基礎医学から臨床医学までを繋ぐことの重要性が説かれるが、高久先生が昭和 57 年に書かれた文章を今になって繰り返す (スライド 2)。さらにリーダーの心構えを「自分が燃えて人に火をつける燃やす人」と常に自分自身が努力することを言われている (スライド 11)。

(2018 年 1 月 19 日)